

## 2019年度 第3四半期決算 主要な質問に対する回答

### Q: 2019年度第3四半期累計実績について総括していただけますか？

A: 2019年度第3四半期累計の売上収益は、為替が前年比で円高となる中、建機市場の減速影響や昨年10月に一部のサプライヤーの台風被害による生産影響を受けたこともあり、前年同期比8%減の6,872億円、調整後営業利益は対前年同期比31%減の587億円、利益率は8.5%となりました。そのうちマイニング新車販売の売上は21%増となり、マイニング全体の売上は1,212億円で為替円高影響を含めても前年同期比5%増となりました。

財務面では、棚卸資産は、前年度末比で185億円増加の3,434億円となりました。手持日数で見ますと、営業債権は前年度末より16日短縮の成果でしたが、棚卸資産は13日延伸の128日となり、正味運転資金手持日数は前年度末よりも9日延伸した164日となりました。この影響で有利子負債が前年度末よりも374億円増加しましたが、資本合計は31億円増加しました。

2019年度第3四半期累計のキャッシュ・フローについては、営業キャッシュ・フローは運転資本の改善により前年同期比では696億円の改善し、205億の黒字としましたが、投資キャッシュ・フローの支出増加もあり、フリーキャッシュ・フローは81億円の支出超過となりました。

### Q: 2019年度見通しについて総括していただけますか？

A: 2019年度の市場見通しとしては、全世界の油圧ショベル需要は第3四半期の状況を反映し、前回10月時点の見通しから5千台減少の前年度比△10%になる見込みです。一方で、マイニング機械需要は、ほぼ前年度並になると見込んでいます。業績見通しは、年度当初発表を据え置き、売上収益は9,500億円(前年度比8%減)、調整後営業利益は860億円(前年度比26%減)、親会社株主に帰属する当期利益は480億円(前年度比30%減)を予想します。予想為替レートは、当社は海外事業比率が高く、様々な地域の通貨での決済を行っていることから、通貨毎の想定変動レンジの下限を採用しており、米ドル100円、ユーロ110円、元14.5円、豪ドル70円を据え置きます。なお、第3四半期に発生した台風影響に関しては第4四半期に挽回する予定で、年度見通しに対する影響は出ない見込みです。

中期経営計画「Connect Together2019」の最終年度にあたりますが、バリューチェーンの深化をはじめ、目標とした各施策の完遂を図って参ります。

### Q: 建機の需要環境の見方についてもう少し詳しく教えてください

A: 当社の主力製品である油圧ショベルの世界需要は、2019年度第3四半期では、日本や北米においては堅調に推移したものの、世界的に先行き不透明感が拡がる中、中国・アジア・インド・オセアニア・中東・アフリカ等で前年同期を下回りました。2019年度の通期では、世界全体で10%減の21万2千台で業績を想定しています。マイニング機械の需要環境については、大規模鉱山を所有する大手鉱山会社からの需要は前年同様の水準で推移していますが、中規模鉱山会社からの需要は減少しています。

### Q: 今年1月から中国で新型肺炎が流行しています。事業所・生産拠点の状況、今後の見通しなど、現時点でわかることを教えていただけますか？

A: 中国にある販売・製造拠点の春節明け業務開始を各都市当局の指示により当初日程を延期している状況です。業績影響については、春節休暇中の現段階で申し上げるのは難しいですが、中国国内での人と物資の移動に中央政府から規制が出されているため、今後暫くは経済活動全体へのマイナス影響は確実に出てくると見込まれ、春節休暇明けの中国政府による新たな規制等を注視して、安全と健康を第一に慎重な対応を検討していきたいと考えています。